



愛川ふれあいの村 今月の風景

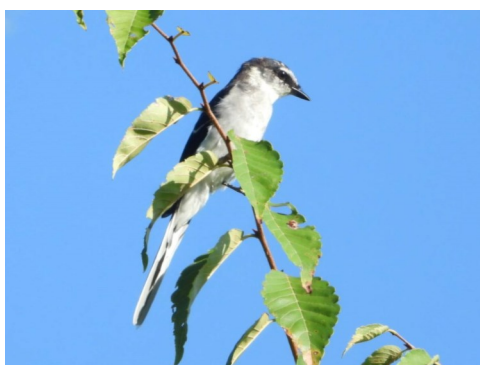
2025年9月 自然のたより

暦上ではすでに秋となっていました、9月の後半になってようやく、愛川ふれあいの村で秋を感じられるようになりました。

現在愛川ふれあいの村では、蝉の声が少しずつスズムシやコオロギなどの秋の虫の声に変わってきています。また、栗や銀杏の実が地面に落ち始め、それらをサルが食べに群れで訪れる姿が多く見られます。人間だけでなく虫、動物、植物のすべての生き物が夏の終わりと秋の始まりを感じ取って新しい季節の準備をしています。（小熊）



ヌスビトハギ



リュウキュウサンショウクイ



テングダケ



ミズヒキ



アレチヌスビトハギ



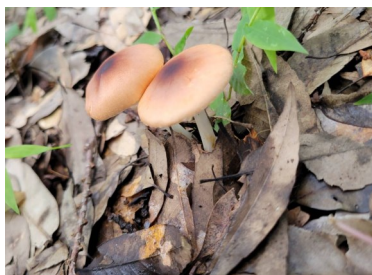
秋の七草ススキ



今年は豊作カリン



アワタケ



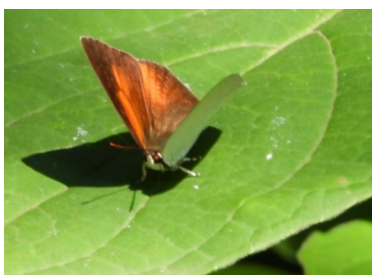
アカキツネガサ



ニオイコベニタケ



ハツタケの仲間



ウラギンシジミ



キバラヘリカメムシ幼虫



言葉を操るシジュウカラ



ハクセキレイ

トピックス ★アカギカメムシ★

6月にも多く見られたカメムシですが、この9月にも面白いものが見られました。いつも歩いている食堂前の道に見慣れない色の虫が潰れていたの、見てみるとアカギカメムシという熱帯から亜熱帯地域に生息するカメムシでした。主にアカメガシワを食草にしている、集団を作ったり、メスが卵を守ったりと社会性を持つ昆虫です。近年本州まで北上していますが、愛川ふれあいの村ではこれまで確認されたことがなかったそうで、死骸ではありますが今回が初めての発見でした。周辺にアカメガシワは生えておらず、村内のアカメガシワを覗いてみても他の個体は見つかりませんでした。まだ定着していないのか、それともアカメガシワに限らず他の植物を食べているのか真相はまだまだ分かりません。また、アカギカメムシは個体によって色が異なり、写真のように赤い個体もいれば白や黄色の個体もいます。これからの時期、木々の紅葉で、より見つけるのが難しくなりそうな色合いです。南方には紅葉が存在しませんがマッチして面白いです。

本来の生息地ではない環境でどのように暮らしているのか気になるのですが、それよりもどのように入ってきたのかが重要です。最近では温暖化の影響で、様々な生き物が北上してきているので、安易に外来種と断定できなくなっています。仮に北上ではなく定着（その地域で繁殖）しているのであっても、定着できてしまっているこの環境に問題があると私は考えます。

もう9月だというのに南方に生息しているカメムシが活発に活動しているのは少し異常に感じます。やはり温暖化の進行によって今ある自然環境は明らかに変わってきています。これから日本の自然がどうなっていくのか大いに気になるところです。（安田）



※写真は伊豆高原で撮れたもの

生き物 ★樹上で鳴く秋の虫★

ロッジの網戸に緑色の虫がいます。秋のはじめ、サクラなどの街路樹の下を通ると木々から降り注ぐ「リーリーリーリー」の声の正体、アオマツムシです。アオマツムシは中国原産の外来種で明治時代に日本にやって来たと言われています。関東以西に分布していましたが、現在は東北地方まで生息範囲を広げています。体型はラグビーボールに似ていて、雌は全体が緑色、雄は背部中央が茶色で区別がつかます。（写真参考）サクラ並木にはたくさんのアオマツムシが棲んでおり、東京では最も多く聞く秋の虫の声だそうです。

人間の作り出した環境を上手に利用して生き延び、仲間を増やす外来種のしたたかさを感じますね。（高梨）



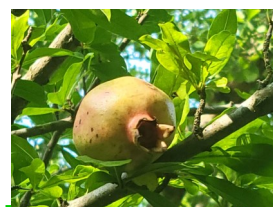
雌



雄

旬 ★ザクロ★

中東やイランを原産とする「ザクロ」は、秋口になると実が熟し、硬い皮の中にはたくさんの赤い粒々が大発生、割ってみるとちょっと驚く食べ物です。この粒々は、種衣（しゅい）と呼ばれ、少し硬いものもありますが、種ごと食べることができるようです。というのも、物めずらしさからか、食べたことがないので。どうやら、1999年ごろ日本ではブームが起きたそうです。とはいえ、日本のザクロは鑑賞用が多く、食べるには輸入品の方が向いている様子。ポリフェノールがたくさん入っていて健康的です。ただし、注意が必要！皮の部分には、ペレチエリンという毒があり、食べるのは種衣だけにしてください。（佐々木）



今回の、④のハラタケ類の中のイグチ科のイロガワリを紹介します。キノコを触ると化学変化を起こし黄色の部分に青く変色してしまいうためにイロガワリという名があります。皆さんでこの不思議なキノコの色の変わり方を確かめてみましょう。（吉田）

来月の見どころ
十月は、「キノコの秋」というテーマで自然観察会を行います。神奈川県マキノコは約500種類ほどが確認されていますが、実際はもっと多くの種類があると推測されています。
菌界は、5つのグループに分けられます。①子の菌類（サナギタケやアミガサタケなど）②キクラゲ類（キクラゲやツノマタタケ）③ヒダナシタケ類（ナガナタケや硬いサルノコシカケなど）④ハラタケ類（ヒラタケやイグチなど）⑤腹菌類（ツチグリやスッポンなど）に分けられます。5つのグループのどの仲間か分けてみると意外にその特徴が見えてきます。

来月の見どころ
十月は、「キノコの秋」というテーマで自然観察会を行います。神奈川県マキノコは約500種類ほどが確認されていますが、実際はもっと多くの種類があると推測されています。
菌界は、5つのグループに分けられます。①子の菌類（サナギタケやアミガサタケなど）②キクラゲ類（キクラゲやツノマタタケ）③ヒダナシタケ類（ナガナタケや硬いサルノコシカケなど）④ハラタケ類（ヒラタケやイグチなど）⑤腹菌類（ツチグリやスッポンなど）に分けられます。5つのグループのどの仲間か分けてみると意外にその特徴が見えてきます。